

品川区いじめ根絶協議会（第2回）議事録

実施日時：平成30年1月30日午前9時30分から午前11時30分
会 場：品川区立山中小学校

1 品川区教育委員会 教育長挨拶

2 品川区立山中小学校 校長挨拶

3 授業見学

4 報告

＜山中小学校長より、「学校におけるいじめ防止に向けた取組」の説明＞

5 意見交換会

＜意見交換内容発表＞（要旨）

【第1グループ・A委員】

見学した授業についての意見が出た。5年生は本音とたて前をしっかりと使い分ける年頃になってきており、子どもは教師が想像する以上の発想をもっている。それを授業の中で教師が捉え、どう子どもにフィードバックしていくかというところが醍醐味であり、難しさでもある。また、教師と子どもが対面でやりとりするのではなく、子ども同士が意見を練り上げていくことが大切である。今日の授業では、子どもの意見を捉え、一生懸命授業へ落とし込んでいく姿が見られた。

【第2グループ・B委員】

授業の感想を中心に意見交換を行った。今日の授業は、担任と子どもの信頼関係がとてもよくできていることが分かる授業であった。5年生になると、大人が考えている以上に、深い内容のことを考えているという印象をもった。

学校の取組について、いじめた側が100%悪いという根本の考え方がとても良いという意見が出た。また、全学年通しての縦割り活動も行っており、異学年との交流と深めることで、思いやりの心が育まれると考える。

【第3グループ・C委員】

それぞれの立場でいじめ防止についての意見交換を行った。

警察では、SNSによるいじめを危惧している。インターネットを使う際のルール作りが大切であるため、警察が各学校へ情報提供し、いじめの未然防止を図っている。また、ネットトラブルは進化しており、学校側が知らない情報もあるため、警察が最新情報を提供している。今後も学校と警察の連携を図っていきたい。

地域では子どもの見守りを行っているが、学校からの情報提供があることで更に見守りを強化することができる。登下校時に地域の方が挨拶することで、子どもたちは見守られてい

る安心感をもつとともに、トラブルやいじめにつながるような行為に対する緊張感をもつことができる。また、学校側も清掃活動等を通して地域に貢献することで、更に連携を深めることができるだろう。

【第4グループ・D委員】

見学した授業では、子どもが活発に発言し、子どもと教員の間に信頼関係があることが分かりとても良かった。

いじめた側が100%悪いという学校の指導も良い。しかし、いじめが悪いと知りながら周囲に分からないようにやっているケースがあり、このようなケースに対する取組も必要である。

地域で見守りを行い、勇気をもって注意や学校への連絡をすると良い。学校と地域の信頼関係を築くことで、地域の方もより積極的に情報提供することができるだろう。

【委員長】

授業でいじめの発見について扱っていた。いじめを発見することは難しく、何がいじめになるかということは各学年によって違う。そのため、各学年で今回のような授業をすると良いだろう。

見えないいじめもあるため、いじめ調査を年に3回程度実施し、緊張感を保つと良いと考える。さらに、学校での実施では学年が上がるにつれ本音が出づらくなるため、家庭で記入するようにすると本音で書くことができるのではないかな。

いじめの発見が最も大事であるということを踏まえて今後取組を実施していくべきである。

6 終わりに

7 事務連絡

<事務局より来年度のスケジュールについて>

8 閉会